

# いすみ鉄道 最近の取り組み

いすみ鉄道株式会社

## 1 会社概要

いすみ鉄道株式会社は、千葉県夷隅郡大多喜町いすみぐんおおたきまちに本社を置く鉄道事業者で、昭和63年3月から第3セクター方式で転換されたJR木原線を引き継ぎ、26.8キロメートルの鉄道を運行しております。駅数14駅と車両8両を有し、途中の大多喜駅を拠点として運輸区・運転指令を置き、地域の足として運行してまいりましたが、沿線人口の減少や少子化に伴う利用客の減少に歯止めがかからない状況が続きました。いすみ鉄道再生会議による平成20年から2年間の収支検証期間において、民間公募社長の就任、オリジナル商品の開発、売店・WEBショップの新設、自社養成列車乗務員訓練生制度の導入などを行い、観光鉄道化を目指すことで収支の改善が図られたことから、平成22年8月に存続が決定し、現在に至っております。

## 2 路線及び利用の概況

JR外房線「大原駅」から房総半島の内陸部「上総中野駅」に至る路線で、終日有人駅は大多喜駅のみ、売店設置駅は大原、国吉、大多喜となっています。終点の上総中野駅は小湊鉄道との接続駅で、小湊鉄道といすみ鉄道を利用することでJR内房線「五井駅」に抜けることができます。木原線の線名の由来である久留里線と接続して木更津～大原を結ぶことはかなわかったものの、鉄道で房総半島を横断出来るルートを形成しております。

沿線の市町村は、いすみ市と夷隅郡大多喜町の1市1町で、いすみ市役所が大原駅、大多喜町役場が大多喜駅、高校は県立大原高校が大原駅、県立大多喜高校が大多喜駅、医療機関としては国吉駅が最寄りとなっています。平日は、大原～大多喜間の通学・通院・要務利用が多く、大多喜駅にて利用の大きな段差があります。休日は、上記の房総半島横断や観光の全線利用が多くみられます。

## 3 取り組みの概要

存続が決定し、地域の足を守ってゆくために首都圏から特急列車にて約1時間で到達できる日帰り圏であること生かし、2つのお客様をターゲットにした観光鉄道化に取り組みました。一つ目は、女性をターゲットにしたムーミン列車の運行です。既存の車両にムーミンキャラクターの貼り付けとヘッドマークを取り付け終日運行し、「いつでも乗れるムーミン列車」として運転しております。二つ目は、鉄道ファンをターゲットとした旧木原線をイメージした懐かしの国鉄型車両の運行です。現在までに2両を導入し、土日祝日に観光急行列車として運行しております。



ムーミン列車



国鉄型車両 観光急行列車

そのほかにも、ホテルウォッチングトレイン、ハロウィン列車、ジャズ列車などのイベント列車、たけのこ懐石列車、伊勢海老特急、ビール列車などのグルメ列車を運行してまいりました。

#### 4 最近の取り組み

##### (1) バスツアーの実施

平成25年のゴールデンウィークに、圏央道 市原鶴舞インターが大多喜駅から約20分のところに開通したのに伴い、羽田空港から1時間で大多喜町に到達できるようになったことから、土日祝日限定で羽田空港から大多喜駅までの直行バスの運行を開始しました。当社企画実施の旅行商品として発売し、首都圏各地及び全国各地からの新たな集客ツールとして運行しております。

さらに、4.(3)に記載の店舗からの運行に変更し、都内アクセスを改善するとともに、4.(2)に記載のレストラン企画とリンクさせ乗客増加に努めております。

##### (2) レストラン キハの運行

上記で記載した国鉄型車両として導入した2両の車両は、土日祝日の観光急行列車として運行しておりましたが、グルメ列車をより発展させ、確実な乗客の確保、客単価のアップ及び沿線の豊かな食材を味わっていただくことによる地域貢献を図るため、レストラン車両の運行を開始しました。1両のクロスシート部にお食事を楽しんでいただけるテーブルを設置し、平成25年に観光急行列車のダイヤ内で試行運行、平成26年5月から通年運行に踏み切りました。現在では、土曜日に伊勢海老や鮎をお召し上がりいただく「イタリアンランチクルーズトレイン」、日曜日に伊勢海老やお刺身をお召し上がりいただく「伊勢海老特急お刺身列車」、夏休み期間は価格を抑えた夏休み企画を実施し、順調な予約をいただいております。予約をいただくことで、天候等に左右されやすい日帰り観光の弱点をフォローしております。



イタリアンランチクルーズトレイン



伊勢海老特急お刺身列車

### (3) 都内への進出

線内3駅で展開している売店業の売上増進と全国のローカル線連携促進のため、当社商品及び全国の第3セクター商品を東京都内で気軽にお買い求めいただける店舗として、平成26年6月に「いすみ鉄道 元祖ローカル線本舗」を東京スカイツリーのお膝元 押上にオープンいたしました。



いすみ鉄道 元祖ローカル線本舗

## 5 今後の課題

上記のような取り組みにより、土日祝日のお客様は増加に転じ、閑散としていた駅には活気が戻り、レストラン列車も好評を得て、マスメディアへの露出も増えてきております。反面、平日は利用客の減少に歯止めがかからず大多喜駅での輸送段差も多くなってきました。

土日祝日の旅客輸送及び売店で物販にはこれ以上の伸びに限界があり、平日観光輸送の開拓とレストラン列車の継続的な顧客獲得が課題となります。特にレスト

ラン列車には現在個人のお客様が中心ですが、団体グループ及び貸切運行の先行した取り込みとセールスが必要であり、個人のお客様にはメニューの改変などリピーターになっていただく施策と販路拡大が必要と考えております。

これからも地域輸送を確保しつつ、更なる観光輸送に取り組み、ローカル線再生のモデルケースとなるべく頑張っゆく所存です。